



羽ばたけ 大空へ

# 蒼天

新聞財団

編集：鹿屋体育大学  
発行：公益財団法人鹿屋体育大学  
体育・スポーツ振興教育財団  
編集責任者：鹿屋体育大学長  
発行人（発行責任者）：財団理事長 風呂井 敬  
財団事務局：〒891-2393 鹿屋市白水町1番地内 0994-46-4827(直)

## 令和8年度 鹿屋体育大学入学式 学長告辞

鹿屋体育大学長 金久 博昭



新入生の皆さんは、本日より鹿屋体育大学の学生として、新たな学びをスタートすることになります。そこで、専門とする競技種目あるいは専攻する課程に関係なく、皆さん全員が意識してほしいことがあります。それはスポーツが持つ多面性についてです。

スポーツや武道の実践そのものは、身体的および生理的現象の表れであると同時に、その成績は、やる気、不安、緊張といった心の有りようにより左右される心理的現象でもあります。そしてスポーツや武道は、人間独自の営みとしての長い歴史を持ち、文化的、社会的側面も持ち合わせています。また、昨年行われたスポーツ基本法の改正では、スポーツへの関わり方や価値を示すものとして、これまで謳われてきた「みる」「やる」「伝える」に加え、「つなげる」といった社会的側面に関する言葉が追加されました。

そのような多様な特性を持つスポーツや武道に対し、実践のみあるいは限られた授業科目や学問領域からのアプローチでは、それらの本質を理解することは困難です。例えば改正されたスポーツ基本法では、スポーツに関する科学的研究の領域は、従来の医学をはじめとする4領域に、新たに社会学、倫理学、教育学などの7領域を加えた11領域に変更になりました。このような変更は、スポーツや武道を学ぶ者にとって、実践する能力に加え、自然科学から人文・社会科学までも含む幅広い知識の習得が求められていることを意味します。言い換えれば、領域横断的な幅広い学びを通してこそ、スポーツや武道を学ぶ者に対し社会は何を求めているのか、またスポーツや武道を学ぶ者が、社会的課題に対し如何に貢献することができるといえます。そして、その理解こそが「スポーツで未来を拓く」鍵であるといっても過言ではありません。

鹿屋体育大学は体育系単科大学であり、幅広く学ぶという点では総合大学に比べポテンシャルが低いと思われるかもしれませんが、本学は、教員組織として、スポーツ・武道実践科学系、スポーツ人文・応用社会科学系、スポーツ生命科学系の3つの系を構成することで、多様な視点からスポーツ、武道、体育、健康づくりに関する教育と研究の充実を図っています。また、本学では、スポーツインバリエーション推進機構をはじめ、スポーツ情報センター、国際交流センターや海洋スポーツセンターを中心に、スポー

ツや武道に関する教育研究のイノベーション及び国際化を目的とした様々なプログラムを実施しています。さらにスポーツによる地域振興や研究成果の社会実装を目的に、鹿屋市を中心とする地域の方々と多岐にわたる連携事業を展開しています。すなわち、本学には、様々な視点からスポーツや武道を学ぶ機会が数多く存在するわけであり、その機会を生かすかどうかは君たち次第です。一つのことばに集中することも良いですが、自身の未来に思いを馳せることも大切です。どうか、日々幅広い視野とスポーツや武道の未来に対する強い好奇心を持って、貪欲に学んでいただきたい。そのような積極的な学びの姿勢は、「する」だけでなく、「みる」「伝える」「つなげる」にも必要です。

皆さんがこれからの学生生活を送るうえで基盤となる、ここ大隅の地は自然が豊かであり、鹿屋市をはじめとする周辺地域の皆様は、学生諸君を温かく迎え、様々な形でご支援してくださいます。是非、大隅の地を第2の故郷と思い頑張ってください。

最後になりましたが、本日、令和8年度入学式を挙行するにあたり、ご来賓の方々と並びに保護者の皆さま方のご列席を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。新入生の皆さんへの告辞とさせていただきます。

## 宣誓の言葉

令和8年度新入生代表  
東口 藍太郎  
体育学部スポーツ総合課程  
(龍谷高等学校・佐賀、宮崎県出身)

私たちが、  
・体育学部  
スポーツ総合課程 1,300名  
・武道課程 48名  
・第三年次編入学 20名  
・スポーツ総合課程 20名

・大学院  
体育学研究科  
体育学専攻 修士課程 15名  
博士後期課程 6名  
・スポーツ国際開発学  
共同専攻 修士課程 3名  
・大学体育スポーツ高度化 共同専攻 3年制博士課程 2名

合計 2,277名は、入学の許可を受け、ここに鹿屋体育大学の学生となることができました。

春の訪れを感じられる今日、日本で唯一の国立体育大学であるこの鹿屋体育大学に入学できたことを誇りに思います。

私たちはスポーツの持つ力を信じ、繋ぎ、人を動かし、繋ぎ、前に進ませる力。その力は、競技の枠を超え、地域を活性化し、社会に新たな価値を生み出します。

私は専門とするサッカーを通してたくさんの人と出会いました。そしてサッカーを通してたくさんの方々の感情を知りました。

勝った時の喜び、負けた時の悔しさはもろろん、挑戦するということの怖さ、自分の可能性を知った驚き。たくさんの感情を知り、人としても大きく成長してきました。

私たち入学生一同は、誇り高き鹿屋体育大学の一員として、日々自分の夢に向かって努力しながら、夢中になれるスポーツを通して地域の皆様に笑顔にするように、功績を残していきます。

そしてどんな困難を前にしても想像力を持ち、スポーツの力で未来を切り拓きます。また、本学の理念に則り、学業及び競技に真摯に取り組み、人としての成長を続けながら社会に貢献できる人材になることをここに誓います。

## 在学生歓迎の言葉

第43代 体育会会長  
スポーツ総合課程4年  
後藤 紗希  
(尚絅高等学校・熊本)

春の日差しに暖かさを感じる季節となりました。本日、この良き日に鹿屋体育大学へ入学された皆様、ご入学誠におめでとうございます。在学生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

今日という日を迎え、期待に胸を膨らませている人もいれば、少し緊張や不安を抱えている人もいるのではないのでしょうか。

特に、初めて親元を離れ、新しい土地で生活を始める皆さんにとっては、大きな一歩であると思います。私自身も、入学当初は同じような気持ちでした。慣れない環境、思うようにならない競技、そして初めての一人暮らし。気づけば、ホームシックになっていた時期もありました。

そんな時に支えてくれたのが、課外活動や勉強で苦楽を共にする同期や先輩方の存在でした。何気ない声掛けや、一緒に過ごす時間、どれだけの助けがあったかわかりませんが、また、鹿屋の地域の皆様のおかげにも、幾度となく支


多くの大学生がそれぞれの形で大学生活を送る中で、ここまで真剣に、ひとつの競技に向き合える環境にあること。それは決して当たり前のことではなく、かけがえのない時間です。時には「なぜ続けているのか」「何をしたいのか」を自分自身で問いかけながら、目的をもって歩んでいくこと。その積み重ねが、人としても、競技者としても必ず皆さんの未来へとつながっていくはずです。

そして、もし苦しい時があれば、どうか一人で抱え込まないでください。ここでは競い合いながらも支えあえる仲間がいます。そして今日、この日から、皆さんもその一員です。新入生の皆さんの大学生活がより多岐にわたる時間になることを心より祈念し、歓迎の言葉とさせていただきます。

## スポーツを愛する人たちへ

(公財)ミズノスポーツ振興財団は、「日本国のスポーツの振興に必要な事業を行い、さらなる国民の心身の健全な発達に資する」を目的とし、その活動は55年以上にわたります。

具体的には、スポーツの普及振興やスポーツの国際交流の発展に対する助成、スポーツに関する科学的・学術的・医学的研究に対する助成、優秀なスポーツ指導者やスポーツライターを顕彰する事業などを行っており、その助成累計額は約93億円に及びます。



公益財団法人  
ミズノスポーツ振興財団



「冠スポーツ奨学金授与式」で風呂井理事長から冠スポーツ奨学金証書を授与される梅澤さん(右)と橋本さん(左)

本財団の事業は、冠スポーツ奨学金給付企業の皆様の多大なるご支援とご協力により支えられています。ここに深く感謝申し上げます。 ※学生は当時。



「冠スポーツ奨学金贈呈式」で学生を代表してあいさつする戸田さん

公益財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団では、多額の寄附をいただいた企業・団体等の名称を冠した奨学金を設け、国内外の競技大会で優秀な成績を収めた学生および団体を対象とした「冠スポーツ奨学金贈呈式」が行われ、受給者個人35名、5団体を代表し、サッカー部の戸田峻平さん(スポーツ総合課程4年、釧谷高等学校・佐賀、鹿児島県出身)に対して、風呂井敬理理事長から奨学金が手渡されました。 また、4月6日の令和8年度鹿屋体育大学入学式終了後には、「冠スポーツ奨学金証書授与式」が行われました。令和8年度の冠スポーツ奨学金給付に係る企業19社の代表者から風呂井理事長へ奨学金目録が贈呈された後、国際大会や全日本大会などで活躍し、将来が期待される学生3名に対し、奨学金証書が授与されました。

3月23日、令和7年度に国内外の競技大会で優秀な成績を収めた学生および団体を対象とした「冠スポーツ奨学金贈呈式」が行われ、受給者個人35名、5団体を代表し、サッカー部の戸田峻平さん(スポーツ総合課程4年、釧谷高等学校・佐賀、鹿児島県出身)に対して、風呂井敬理理事長から奨学金が手渡されました。

# 令和7年度冠スポーツ奨学金 令和8年度冠スポーツ奨学金 対象学生が決定

## 令和8年度 冠スポーツ奨学金給付企業 (50音順)

企業等名	代表者名
医療法人秋津会徳田脳神経外科病院	理事長 徳田 元様
おおoura皮膚科	院長 寺崎祐太朗様
カイコー株式会社	代表取締役社長 宝地 雅浩様
鹿屋衛生管理センター株式会社	代表取締役社長 小式澤 郁様
株式会社鹿屋寿自動車学校	代表取締役 水口 拓己様
株式会社きたやま	代表取締役 北山 勉様
有限会社敬愛社	代表取締役 岡留 利秋様
小鹿酒造株式会社	代表取締役 児玉 拓隆様
サツマガス工業株式会社	代表取締役 宮園 春人様
株式会社新笙社印刷	代表取締役 岡崎 洋人様
医療法人青仁会池田病院	理事長 池田 大輔様
大海酒造株式会社	代表取締役 河野 直正様
株式会社ニード鹿屋	代表取締役 藤崎 哲雄様
有限会社久永パデー	代表取締役 久永 貢一様
税理士法人風呂井会計	代表社員 風呂井 敬様
有限会社マルジン	代表取締役 新屋 浩一様
株式会社丸屋	代表取締役社長 家迫 崇史様
公益財団法人ミズノスポーツ振興財団	会長 水野 明人様
株式会社ミズホ商会	代表取締役 田中 丈尋様

## 令和8年度 冠スポーツ奨学金給付対象学生

所属団体	氏名	主な競技成績	成績
自転車競技部	梅澤 幹太	2025全日本選手権トラックレース 4kmTP	1位
陸上競技部	岡村 颯太	第109回日本陸上競技選手権大会 800m	3位
剣道部	橋本 陽菜	令和7年度全日本女子学生剣道優勝大会	2位

## 令和7年度 特別スポーツ奨学金 (国際大会)

所属団体	大会名	氏名	種目	成績
柔道部	2025世界形柔道選手権大会	長岡 健心 野本 輝	U21未満の部 固の形	1位

## 令和7年度 冠スポーツ奨学金 (団体)

競技団体	大会名	種目	成績
女子バレーボール部	第72回全日本バレーボール大学女子選手権大会	女子	2位
サッカー部	第79回国民スポーツ大会	成年男子	1位
剣道部(男子)	第73回全日本学生剣道優勝大会	男子団体	3位
剣道部(女子)	第44回全日本女子学生剣道優勝大会	女子団体	2位
なぎなた部	第64回全日本学生なぎなた選手権大会	試合競技 団体の部	3位

### 令和7年度 冠スポーツ奨学金 (個人)

所属団体	大会名	氏名	種目	成績
陸上競技部	2025日本学生陸上競技個人選手権大会	廣井 楓	女子円盤投げ	1位
	第109回日本陸上競技選手権大会	岡村 颯太	男子800m	3位
体操競技部	第79回全日本学生体操競技選手権大会	岡 倫太郎	男子平行棒	3位
水泳部	第101回日本学生選手権水泳競技大会	市村 優弥	男子50m自由形	2位
		後野 真衣	女子200mバタフライ	2位
柔道部	2025年度全日本学生柔道体重別選手権大会	平峯 夏鈴	女子48kg級	2位
	第4回全日本学生柔道形競技大会	中島 千波 渡辺 夕菜	柔の形	2位
自転車競技部	第94回全日本自転車競技選手権大会 トラックレース	岩元 美佳	女子1km タイムトライアル	2位
		年見 穂風	女子チームスプリント	2位
	第80回全日本大学対抗選手権 自転車競技大会	加藤明日香	男子オムニウム	1位
		梅澤 幹太	男子オムニウム	1位
	第9回全日本学生選手権オムニウム大会	廣田 汰也	男子4km チームパシュート	2位
		金井 健翔	男子オムニウム	1位
カヌー部	令和7年度日本カヌースプリント選手権大会	植木 春華	女子K-2 500m	2位
		上田 桃華	女子K-2 500m	2位
		澤田幸太郎	男子C-2 1000m	2位
	第61回全日本学生カヌースプリント 選手権大会	西 良偉	男子C-2 1000m	2位
		島津 成彰	男子K-1 1000m	1位
		川野 円子	女子K-2 200m	1位
		土橋 愛花	女子K-2 200m	1位
		立花賢太郎	男子C-2 1000m	1位
		村橋慶太郎	男子K-2 200m	1位
		上野 文象	男子K-2 200m	1位
		佐々木雄信	男子K-1 4×500mリレー	1位
		河野 成玖	男子K-1 4×500mリレー	1位
		山城 翔	男子C-1 4×500mリレー	2位
		新井 怜美	女子K-4 500m	3位
松本 卓暉	男子C-1 200m	3位		
行田 朋晃	男子K-2 1000m	3位		
なぎなた部	第64回全日本学生なぎなた選手権大会	國光 蓮 城間こころ	演技競技	3位

少子高齢化の急速な進展やAI、IoT等によるデジタル社会の到来など社会の大きな転換点を迎える中で国立大学もさらなる変革が求められています。学長のリーダーシップの下、これまでの経験を生かし、教職員の皆様とともに本学の発展に尽力する所存です。どうぞよろしくお願いたします。

スポーツに特化した大学として、長きに渡り教育研究とその成果を通して地域をはじめ社会に貢献してきたからこそこのことだと思えます。

4月1日付で理事(組織・運営担当)・副学長・事務局長を拝命しました。前職は、日本最北端の国立大学である北見工業大学で事務部長を務めていました。雪が残る北見市を立ち、翌日には桜咲く鹿屋市に着し、改めて日本の広さを実感したところです。このように私のような職にある者は、北から南まで全国の大学を異動します。これまでも、小規模総合大学、理系単科大学、旧七帝大、北見工業大学と様々な大学に勤務してきましたが、着任早々感じたのは、学生がきちんと挨拶をしてくれること、そして市民の方々に新入生歓迎会を開催していただいているほど本学が親しまれていると感じました。

**新役員紹介**  
理事・副学長・事務局長  
奥山 敏之  
おおくやま としゆき

**汲取の御注文  
浄化槽の管理**

水質保全に  
全力投球

鹿屋市 株式会社 西日本浄化サービス  
代表取締役 田中ふみ子  
鹿屋市王子町4531-2  
TEL (0994) 43-3425

Kubota 農業機械  
株式会社  
**三ツ木商会**

http://www.mizuho.kubota.ne.jp

〒893-0009  
鹿児島県鹿屋市大手町12番1号  
TEL (0994) 43-4178  
FAX (0994) 44-9371

【営業所】  
鹿屋・高山・志布志・岩川・  
牧之原・野方・垂水・大根占

すべての消費者のために!!

MOVE  
The Sports BEER  
鹿屋市新川町603-2  
TEL 0994-44-2123

まっすぐに。正直に。

**大漑酒造株式会社**

〒893-0016  
鹿児島県鹿屋市白崎町21番1号  
TEL (0994) 44-2190 Fax (0994) 40-0950

〇飲酒は20歳になってから  
〇飲酒は楽しく、適量を。  
〇妊娠中、授乳期の飲酒はお控えください。  
〇飲酒運転は法律で禁止されています。

# 卒業生 Interview

## 大学教員としても全力疾走

熊本学園大学社会福祉学部  
ライフ・ウェルネス学科  
教授

17期生  
**高橋 恭平**さん



### 【Profile】

たかはし・きょうへい。昭和56（1981）年8月18日生まれ。鹿児島県鹿屋市出身。鹿児島県立鹿屋高等学校から、鹿屋体育大学に進学。平成16年3月、体育・スポーツ課程卒業。平成22年、九州工業大学大学院生命体工学研究科修了。博士（学術）。国立スポーツ科学センター研究員、熊本高等専門学校助教、鹿児島大学共通教育センター助教を経て、2022年4月～熊本学園大学社会学部講師、2023年～准教授、2026年～現職。陸上競技部監督。日本オリンピック委員会強化スタッフ、日本陸上競技連盟科学委員会委員も務める。

好きな言葉は、西郷隆盛が座右の銘としたことで知られる「敬天愛人」。熊本学園大学の高橋恭平さんの研究室には、南洲翁のひ孫で陶芸家の西郷隆文氏が手掛けた皿が飾られている。地元鹿屋高校から、鹿屋体育大学へ。スポーツマンらしいさわやかな風貌から、薩摩軍人の誠実でまじめな人柄が伝わってきた。大学院で学問と研究の面白さに目覚め、「これが仕事になったら幸せ」と思った夢を現実に変えた努力家でもある。学生時代に陸上競技部の主将として競技に打ち込んだ情熱を礎に、熊本学園大学陸上競技部の監督としても多忙な日々を送る。ほのぼのとした雰囲気も厚い。に相談に乗ってもらえる先生」と、学生からの信頼も厚い。

学び続ける姿勢を、教育を通して次の世代に伝えたいという思いが強い。専門分野と研究内容について教えて下さい。高橋 専門は神経生理学です。現在は加齢に伴って低下する自律神経機能に着目し、運動や生活習慣の工夫によってその機能を維持・向上できる可能性について研究しています。大学教員として心得ていることがあれば。高橋 大学における教育や研究は生きた営みです。目の前で見られる現象を都合よく解釈せず、客観的な事実の把握に努め、常に謙虚である姿勢を大切にしています。また、学生教育においては、学生一人ひとりの背景や可能性に目を向けることを心掛けています。

日本オリンピック強化委員会スタッフ、日本陸上競技連盟科学委員会委員としての役割について教えてください。高橋 日本陸上競技界の国際競技力向上や普及・育成を目的とした科学的サポートを担当しています。種目は短距離です。具体的には、オリンピックや世界陸上といった国際大会、また日本代表クラスの選手が出場する国内競技会に帯同し、レース分析を行っています。その結果を選手やコーチにフィードバックし、パフォーマンス向上や強化方針の検討に役立てています。

卒業生として感じている大学の魅力は？高橋 競技や研究に本気で打ち込める環境が高いレベルで整っている点だと思います。充実した競技施設や研究環境の中で、自分の限界に挑戦できるだけでなく、その過程を科学的に学ぶことができます。さらに、そうした環境の中で教員をはじめとする資格取得を目指せる点も大きな魅力だと思います。後輩たちへアドバイスがあれば。高橋 鹿屋体育大学には、競技にも学業にも本気で打ち込める環境があります。ただし、その時間をどう使うかは自分次第です。学生時代はうまくいくことが多くありません。悩んだり立ち止まったりすることもありますが、最後にご自身の今後の夢、抱負について聞かせてください。高橋 世間で広く使われる運動能力の評価指標や健康習慣を新規で考案・作成し、幅広い世代に役立つ形で社会に還元できたらと思っています。（取材・文/西みやび）

陸上競技はいつから始めたのですか？高橋 中学から始めました。でも特別に足が速かったわけではありませぬ。鹿屋体育大学に進学したのは？高橋 将来は保健体育の教員になりたいと考えていたので、教員免許を取ることができる点が大きな理由でした。競技を続ける上で、全天候型のトラックを日常的に使用できる恵まれた環境があったことも決め手のひとつです。

どんな学生生活でしたか？高橋 陸上競技部では短距離ブロックに所属し、4年生の時には主将を務めました。大学院に進むのも思っていたのは？高橋 卒業論文の執筆で苦労したのが大きなきっかけです。論文を書く中で、自分の専門性や学びの浅さを痛感すると同時に、保健体育の教員になりたいという思いの背景に、陸上競技の指導を

大学院時代の研究経験です。自分の興味のあるテーマについて先行研究を読み込み、実験を通して新しい知見を出したい、それを学会で発表して他の研究者と議論する過程がとても楽しく感じられました。研究を進めるために英語論文を読む必要があり、苦手だった英語もいつのまにか自発的に学ぶようになっていきました。研究の面白さや

高い練習に励んでいます。1985年に創設された伝統ある部で、今年で41年目を迎えました。全国各地から集まった仲間たちが互いに刺激し合い、切磋琢磨しながら競技力向上に努めています。個人戦では毎年、全日本テニス選手権大会に出場する選手を輩出し、全国の舞台上で活躍しています。また、大学対抗の団体戦でも全国大会への出場を重ね、着実に実績を積み上げてきました。私たちは、団体戦日本一を決める全国王座決定試合への出場、そして全国ベスト3以上を目標に、チーム一丸となって挑戦を続けています。InstagramやXでは、日々の練習風景や試合速報を発信しています。テニスを通して鹿屋市、そして鹿屋体育大学をさらに盛り上げられるよう、部員一同全力で取り組んでいきます。今後とも温かいご声援をよろしくお願いたします。



### テニス部

テニス部は、高橋仁大先生と村上俊祐先生のご指導のもと、男子8名・女子8名の計16名で活動しています。平日は16時15分から19時まで、土曜日は9時から12時まで、6面のデコターフコートと夜間照明を備えた環境で、日々質

## 鹿屋市の皆さまから 今年も新入生歓迎会を開催していただきました！

入学式が挙行された4月6日の夜、「令和8年度第26回鹿屋体育大学新入生歓迎会」を地元商工会議所などで構成される地域づくり交流事業実行委員会（坪水徳郎会長）から開催していただき、新入生201名をはじめ在学生の競技成績優秀者や教職員総勢約240名が参加しました。会は実行委員会の田中俊貴顧問による「ハッピークラブ」での、体感ある場をつくれた開会の挨拶の後、郷原拓男鹿屋市長から、新生活を迎える新入生への激励とともに、地域との交流や各種競技での活躍に期待を寄せた歓迎の言葉が贈られました。新入生にかのやばら園の無料入場券がプレゼントされるセレモニーが行われ、鹿屋商工会議所の新屋浩「会頭の乾杯の音頭でスタートしました。新入生は乾杯の音頭もそこそこ、野外会場にすでに香りが充満していた焼肉（BBQ）やカンパチのお造りのフーズへ一斉に駆け寄り、気が付けば長い列ができていたおでんや



何か物足りない、何か決め手に欠く、そんな“あと一歩”をお手伝いします。  
株式会社 新生社印刷  
〒893-0013 鹿児島県鹿屋市札元1-22-34  
TEL 0994-43-2238/FAX 0994-43-7541  
URL <http://www.shinsei-p.co.jp>  
E-mail [kan@shinsei-p.co.jp](mailto:kan@shinsei-p.co.jp)

あなたの町に、レモンガス  
株式会社レモンガスかこしま 鹿屋支店  
鹿屋市大浦町11423番地1  
0994-42-2181

心にしみる： 産地直採 小鹿酒造株式会社  
鹿児島県鹿屋市春平町上名7312 TEL0994-58-7171  
お酒は20歳を過ぎてから。飲み過ぎに注意しましょう。妊婦・授乳期の飲酒はお控えください。

心豊かな車社会を願う 寿自動車学校  
TEL 0994-43-2627 E-mail: [info@kotobuki-ds.jp](mailto:info@kotobuki-ds.jp)  
〒893-0013 鹿児島県鹿屋市札元1-13-30 県公安委員会指定教習所(技能試験免除)  
ホームページURL <http://kotobuki-ds.jp>

